

中小企業動向 トピックス

中小企業の景況は、持ち直してきている

「全国中小企業動向調査（中小企業編）」結果概要
 (2011年10-12月期実績、2012年1-3月期および4-6月期見通し)

当公庫では、お取引先のご協力を得て、2011年12月に全国中小企業動向調査（中小企業編）を実施しました（調査対象12,605社、有効回答企業数5,844社、回答率46.4%）。

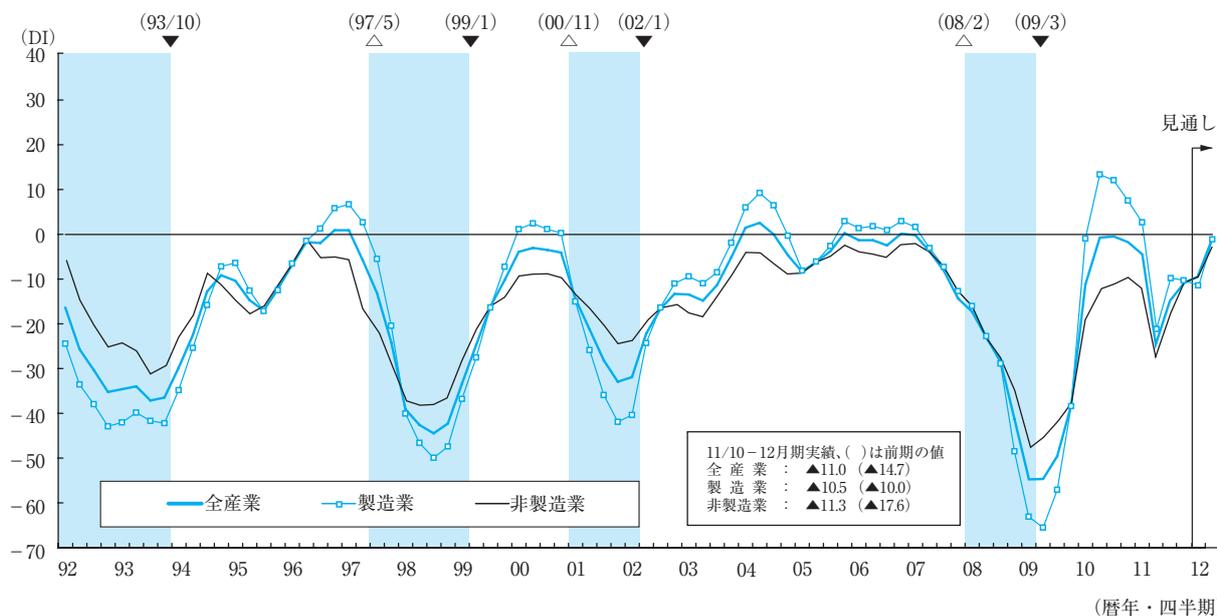
今期は業況判断DIが2期連続で上昇しました。来期以降も引き続き上昇する見通しとなっており、中小企業の景況は、持ち直してきています。

業況判断DIは2期連続で上昇

今期（2011年10-12月期）の業況判断DI（全産業）は、前期（2011年7-9月期）から3.7ポイント上昇し▲11.0となりました（図表-1）。業種別にみると、製造業は前期からほぼ横ばいで▲10.5に、非製造業は6.3ポイント上昇し▲11.3となりました。東日本大震災（以下、震災という）で悪化した中小企業の景況は、持ち直してきていることがわかります。

先行きについてみると、全産業で来期（2012年1-3月期）は▲9.6、来々期（2012年4-6月期）には▲1.9と、DIは引き続き上昇する見通しとなっています。

図表-1 業況判断DIの推移（「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



(注) △は景気の山、▼は景気の谷、網掛け部分は景気後退期（以下同じ）。

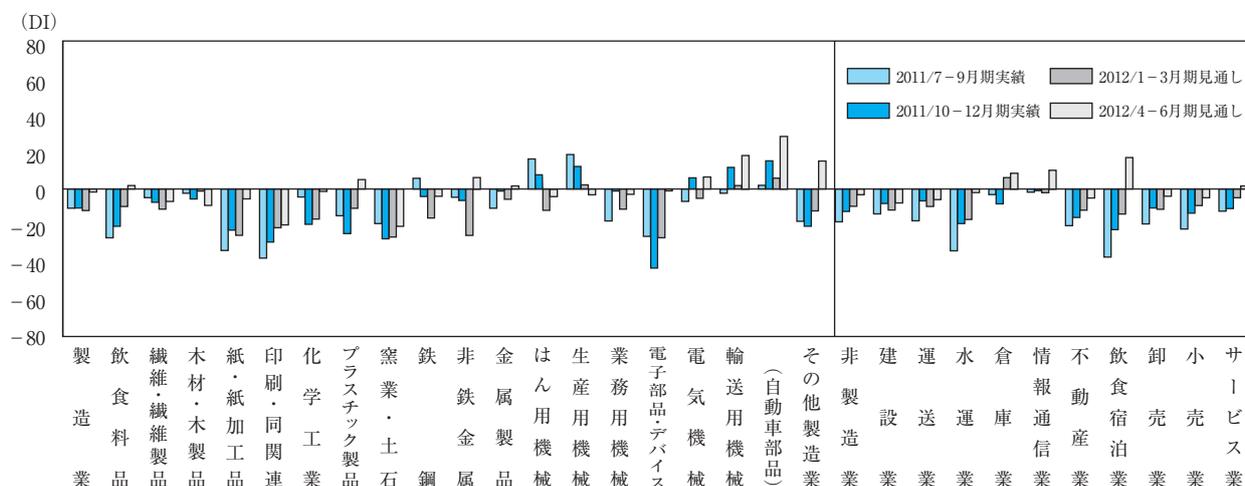
非製造業のほとんどの業種で上昇

今期の業況判断DIを業種別にみると、製造業は飲食料品や紙・紙加工品などで上昇しました（図表-2）。また、自動車メーカー各社の増産の動きを反映して輸送用機械も上昇しています。一方、海外経済の減速や長引く円高などを背景に、電子部品・デバイスや生産用機械、はん用機械などは低下しています。

非製造業についてみると、ほとんどの業種で上昇しています。消費の自粛ムードが和らいできていることから飲食宿泊業や小売業で大幅に上昇しているほか、建設業や運送業などもDIが上昇しています。

先行きについてみると、製造業では、飲食料品や印刷・同関連など内需関連業種で引き続き上昇を見込む業種がある一方、機械・金属関連など先行きを慎重にみる業種もあります。非製造業では、引き続き上昇を見込む業種が多くみられます。

図表-2 業種別業況判断DIの推移（「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）

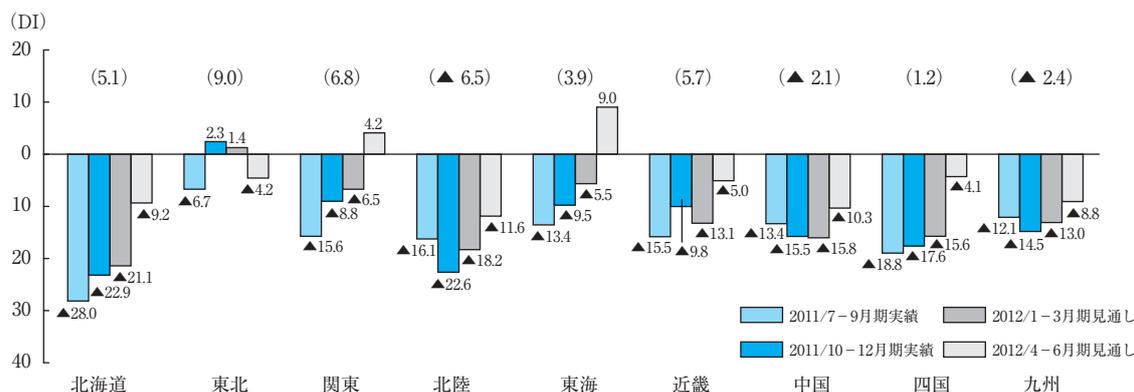


東北はプラス水準に転じる

今期の業況判断DIを地域別にみると、多くの地域で上昇しました（図表-3）。特に、震災からの復興が進む東北ではプラス水準に転じています。

先行きについてみると、来々期にかけて上昇する地域が多くなっています。なかでも東海や関東ではプラス水準に転じる見通しとなっています。

図表-3 地域別業況判断DIの推移（「好転」-「悪化」企業割合、前年同期比、季節調整値）



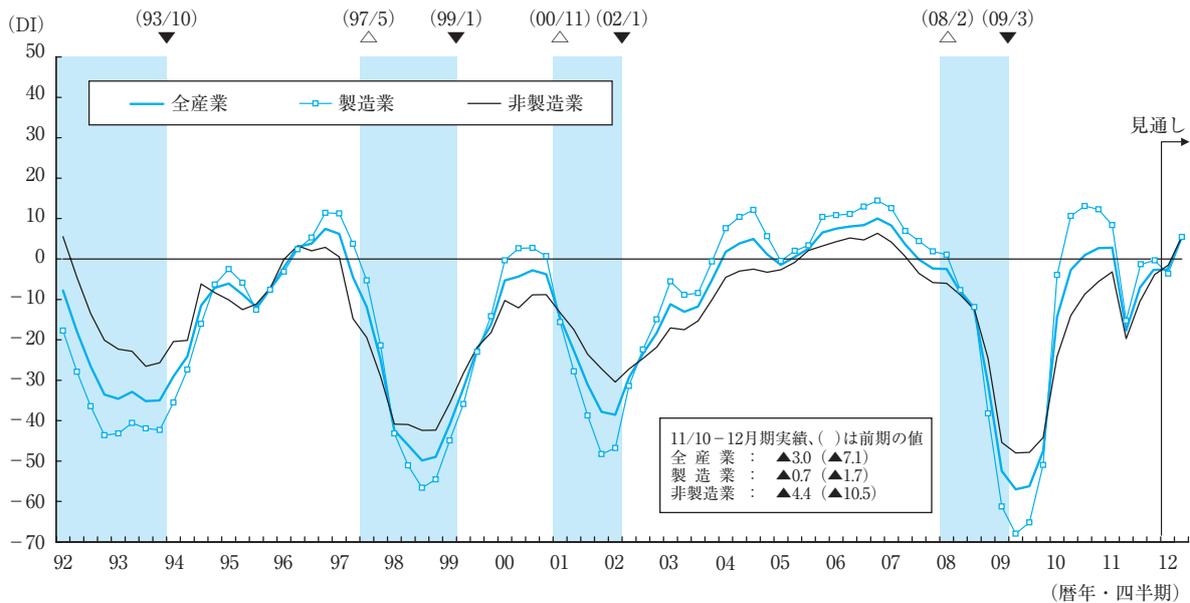
（注）（ ）は前期からの変化幅。

売上げDIは2期連続で上昇

今期の売上げDI（全産業）は前期から4.1ポイント上昇し▲3.0となりました（図表-4）。業種別にみると、製造業は前期から1.0ポイント上昇し▲0.7に、非製造業も6.1ポイント上昇し▲4.4となりました。

先行きについてみると、全産業で来期はほぼ横ばいで推移するものの、来々期には5期ぶりにプラス水準に転じる見通しとなっています。

図表-4 売上げDIの推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）

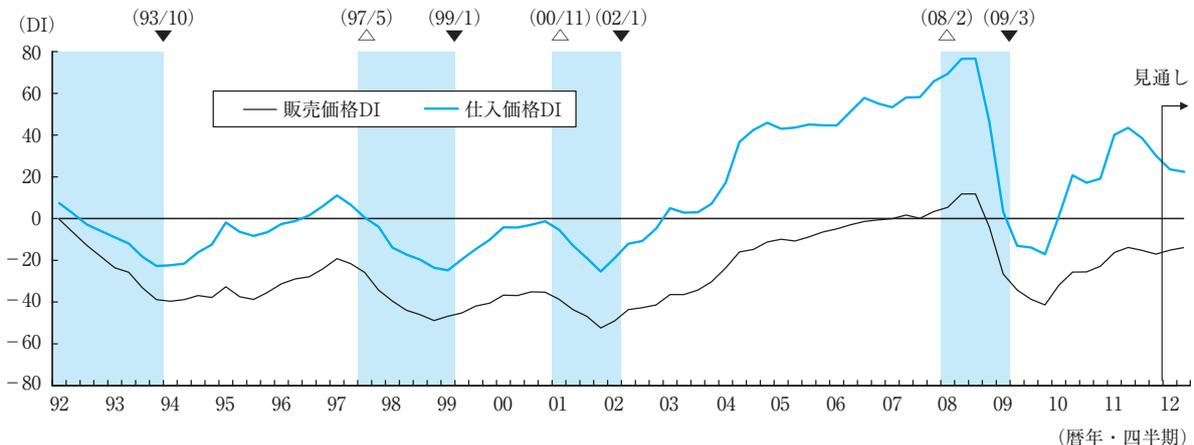


仕入価格DIは大幅に低下

今期の価格関連DI（全産業）についてみると、仕入価格DIは前期から7.8ポイント低下し30.7となりました（図表-5）。来期も6.3ポイント低下し24.4となる見通しとなっています。円高もあって、原材料など輸入品の価格が落ち着いてきていることを反映したものとみられます。

販売価格DIは前期から0.8ポイント低下し、▲16.1となりました。マイナス幅の拡大は2期連続です。来期は1.4ポイント上昇し、▲14.7となる見通しとなっています。

図表-5 販売価格DIと仕入価格DIの推移（いずれも「上昇」－「低下」企業割合、前年同期比、原数値）

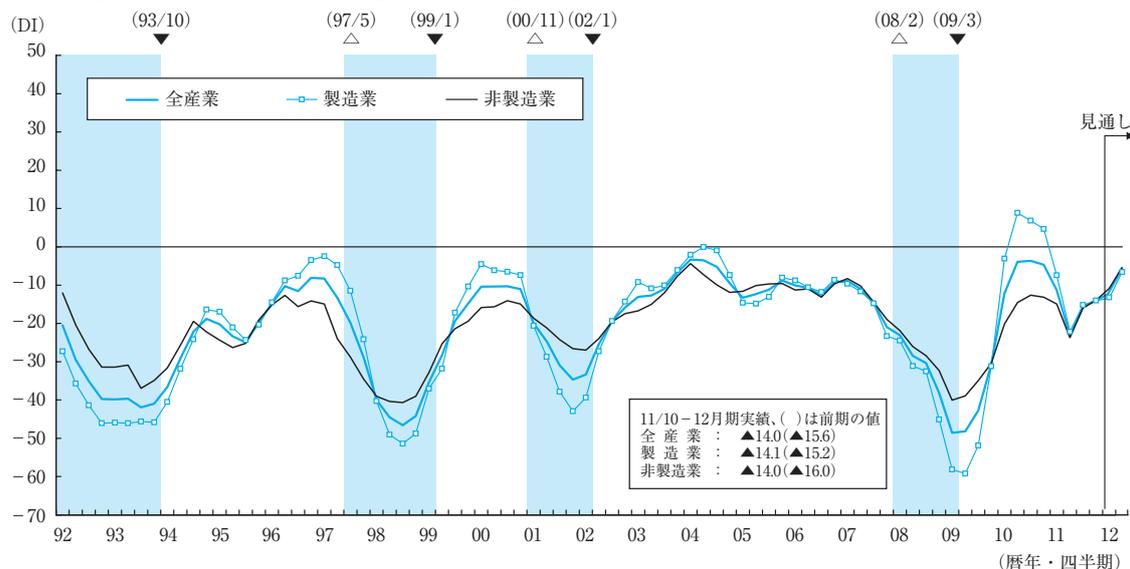


純益率DIはやや上昇

今期の純益率DI（全産業）は前期から1.6ポイント上昇し▲14.0となりました（図表-6）。上昇は2期連続です。業種別にみると、製造業は前期から1.1ポイント上昇し▲14.1に、非製造業も前期から2.0ポイント上昇し▲14.0となりました。

先行きについてみると、全産業で来期はやや上昇し▲12.5に、来々期はさらに▲6.1となる見通しです。

図表-6 純益率DIの推移（「増加」－「減少」企業割合、前年同期比、季節調整値）



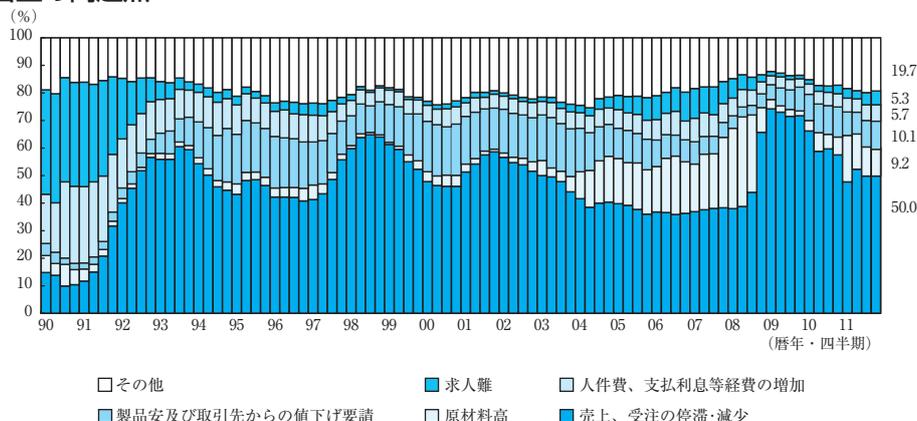
「求人難」が2期連続で上昇

今期の経営上の問題点をみると、「売上げ、受注の停滞・減少」の割合は前期から0.2ポイント上昇し、50.0%となりました。「製品安及び取引先からの値下げ要請」の割合も前期から0.5ポイント上昇し、10.1%となりました。また復興の進む東北で建設業を中心に人手不足が生じていることもあって、「求人難」は前期から0.9ポイント上昇し、5.3%となりました。

海外経済の減速や長引く円高など懸念材料は依然としてあるものの、震災からの復興など堅調な内需環境を背景に、中小企業の景況は持ち直してきています。

（藤田 一郎）

図表-7 経営上の問題点



「中小企業動向トピックス」に関するご意見・ご要望等ございましたら、本支店窓口までお問い合わせください。

発行：日本政策金融公庫 総合研究所 ～ホームページ <http://www.jfc.go.jp/> ～